

合格体験記

2019年12月9日

広瀬 祥司

【受験の動機】

かつて私は、実家が経営していた会社を清算した経験があります。その過程で芽生えた「中小企業への想い」それが診断士試験の勉強を始めたきっかけです。その後、学習を進める過程で得られた知識、これまで会社で経験してきたことを活かし、中小企業のために少しでも役に立ちたいと診断士として独立を考えるようになりました。

【昨年までの学習】

当初は、中小企業への理解はあるつもりでも、診断士試験がどういうものかは良く理解できていなかったため、とりあえず大手予備校への通学という形で勉強を開始しました。そして昨年、一次試験に合格したものの二次試験は不合格。もともと文章を書くことは嫌いではありませんでしたので二次試験に対しては、書籍やセミナー等を活用する我流の勉強法での挑戦となりました。試験直後は、自分なりに書けたという感触もあり合格を期待していましたが、結果は事例ⅠC(49点)、事例ⅡC(47点)、事例ⅢB(57点)、事例ⅣB(52点)という結果でした。特に、得意としていた事例Ⅲで高得点を期待していたにも関わらず、想定外の低得点に愕然としました。

一次試験は学習時間に比例して点は確実に上昇しましたが、二次試験はそうはいきませんでした。どうしたら点を伸ばせるのか、合格者と自分との間にどのような違いがあるのか理解しなければならぬと考えました。そうしたなか、二次試験の壁が越えられず多年度に渡って勉強されている方も大勢いることも知りました。そこで危機感を抱き、二次専門の予備校の力を借りようと考え、多くの予備校説明会に参加してみました。

【SLAを選んだ理由】

受験予備校は6か所をまわりました。しかし、不確かかつ不透明な試験であるにも関わらず、一方通行の指導が多く感じました。中には正解が公表されないこの2次試験の解答について「答えはこれしかない」とか「このメソッドさえあれば大丈夫」等と断言する予備校もあり、多くは受講者の合格率も把握できていない状況でした。(合格率は予備校の成績表だと思います)。そのような中、SLAの存在を知り明会に参加し、倉前先生には再現答案の評価もして頂きました。そこで信頼できると直感した事がSLAを選んだ理由です。受講者の合格率が高いこと、少人数で双方向の学習が可能である点も重要なポイントでした。

SLAでは受講者が受動的にならず、能動的に学習するような場を与えてくれました。これまで考えた事のなかった、設問分析や構文作成など、基本的な答案作成手順を学ばせて

頂きました。ひとつの事例に対して宿題を含めて10時間近くを費やす指導には驚きました。そして学習開始後5ヶ月ほどすると、自分なりに理想とする答案がイメージできるようになりました。「二次試験で高得点をとるのは無理」、しかし「自分ならここまでは書ける」、「ここまではとても書けない」、「これを書くリスクがある」などが分かるようになりました。振り返ると私自身が成長を実感できた瞬間でもありました。

【受験後から合格発表まで】

本試験ではやるだけの事はやりました。そして、受験後は直ぐに再現答案を出させてもらいましたが、それに対する評価を聞く必要性は感じませんでした。理由は、理想とする答案がどんなものであるか自分なりに持っており、自分が書いた答案の足りているところも足りないところも分かっていたからです。昨年は「根拠の無い期待」をしておりましたが、今年は「根拠のある不安」もありました。

12月6日午前10時、協会のホームページで自分の受験番号を探しました。最近、小さな字が見えにくくなっており、6と8を良く見間違えることなどもあり、画面を拡大し何度も確認しました。そして自分が選択した方法に間違いがなかったと確信できた瞬間でした。

【最後に】

これまでの努力、周囲の協力や応援を無駄にしないよう、これからも走り続けたいと思います。ここまで導いてくださった倉前先生、切磋琢磨して来た仲間たち、家族や友人へ感謝致します。本当にありがとうございました。